



星にねがいを（つるだ同朋子ども園七夕行事）

議会だよりさつま

令和4年

70

8月4日発行

条例、補正予算の概要・・・P2～P3
 常任委員会審査の概要、9月定例会の予定・・・P4～P5
 一般質問（9人）・・・P6～P14
 区公民館長と議員との意見交換会、
 町民アンケートの実施・・・P15
 議会活動・・・P16

《さつま町ホームページ》

<https://www.satsuma-net.jp>

トップページの下画面から
議会情報をご覧になれます。

さつま町議会



ここをクリック

令和4年度各会計6月補正予算額

会 計 名	補正額	補正後の予算総額
一般会計 (2号・3号・4号)	6億4,483万円	160億5,900万円
特別会計 国民健康保険事業	財源組替えのため 増減なし	30億8,539万円
特別会計 介護保険事業	7,028万円	35億3,903万円

※金額は千円単位を四捨五入

6月定例会

第2回(6月)定例会は、6月7日から6月27日までの21日間の会期で行われ、専決処分の承認2件、条例の一部改正3件、各会計の補正予算などを審議し、提案されたすべての議案を可決しました。

補正予算の概要

※金額は千円単位を四捨五入

デジタル田園都市国家構想推進 交付金事業費

4,570万円

役場本庁と支所間でのリモート窓口設置及び訪問先でのリモート窓口支援等を行うための環境整備費等です。



総合戦略推進事業費

3,080万円

地方銀行との協働によるローカルブランディング戦略展開に向けた調査・検証費用です。



調査を行う物産館（宮之城ちくりん館）

文化センター管理運営費

1,412万円

文化施設整備委員会（仮称）の開催に伴う経費、文化施設整備計画策定業務委託料等です。



宮之城文化センター（築48年経過）

ローカルブランディング・・・特性や環境等を把握・理解し、新たな魅力・構想を構築すること。

新型コロナウイルス感染症関連補正予算

子育て世帯生活支援特別給付金給付事業

1,457万円

食糧等の物価高騰等に直面する低所得者の子育て世帯等に対し、児童1人あたり5万円の給付に係る経費です。



住民税非課税世帯等に対する 臨時特別給付金給付事業

3,539万円

令和4年度新たに住民税非課税世帯となられた世帯に対し、1世帯10万円の現金給付に要する経費です。



農畜産業生産原価高騰対策事業

7,347万円

コロナ禍において、原油価格や物価高騰等の影響を受けた農畜産業者の負担軽減を図るための経費です。



物価高騰等の影響を受ける畜産業

どう変わった

我が町の条例

税条例等の一部改正

町民税の課税方式の見直しや住宅借入金の特例税額控除の延長などについて条例の一部を改正するものです。

住宅ローンの控除期間は令和20年まで延長され、入居期限が令和7年末までとなります。

国民健康保険税条例及び介護保険条例の一部改正

国民健康保険税条例及び介護保険条例の一部改正で、国の財政支援が令和4年度まで継続実施されることに伴い、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した場合の減免措置について、減免の対象となる納期限を令和5年3月31日に改めるものです。

その他の議決事項

消防団消防ポンプ自動車購入契約の締結

購入後24年経過している、二渡分団消防ポンプ自動車を最新式のものに更新するものです。

■契約金額

2483万8千円

■契約の相手方

有限会社イズミ商事

■乗車定員

6人

柏原小学校大規模改造工事請負契約の締結

柏原小学校の内部の全面改修や照明のLED化等の大規模改造工事を行うものです。

■契約金額

1億8625万

2千円

■契約の相手方

田島・村田特定建設工事共同企業体

専決処分

2件の専決処分を議会で承認

●法律の改正に伴い、さつま町税条例及びさつま町国民健康保険税条例の一部を改正。

●新型コロナウイルス感染症対策に要する経費を補正。



大規模改造工事を行う柏原小学校

どうなった！あなたの陳情

1件の陳情を審査しました

採択

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1還元をはかるための、2023年度政府予算に係る意見書採択の陳情について

◎陳情者

鹿児島県教職員組合さつま地区協議会

◇意見書

中・高等学校で35人学級の早期実現、義務教育費国庫負担割合の引上げなど5項目に関する意見書を国の関係機関に提出しました。

発議2件を原案可決

可決案

①医療費助成制度の現物給付を求める意見書の提出について※①
②医療費助成制度の現物給付に伴う国庫負担金減額措置の廃止を求める意見書の提出について※②

◎提出議員

さつま町議会 有川美子議員

◎賛成議員（発議の提出には2名以上の賛成者が必要）

さつま町議会 上別府ユキ議員・古田昌也議員

◇意見書

子ども医療費助成制度（公費負担事業）における現物給付化（窓口負担の廃止）を所得制限することなく、安心して医療を受けることができる制度の構築を行うことなどに関する意見書を県や国の関係機関に提出しました。

※発議内容（概要）

①現在、医療費助成制度の現物給付は住民税非課税世帯に限り、受診者の窓口負担が無料となっており、住民税課税世帯は一時的な自己負担が生じています。

また、重度心身障害者医療及びひとり親家庭医療の助成制度も償還払いのままとなっています。このため、安心して医療を受けられるように、所得制限等を行うことなく現物給付を求めるものです。

②国は現物給付の導入を抑制するために、自治体に対し、国民健康保険の国庫負担金を減額する措置を講じています。このことは、国が本来果たすべきセーフティネットを担う地方自治体の努力や独自性を阻害するものであることから、減額措置の廃止を求めるものです。

委員会に付託された議案を全て可決

国民健康保険税条例の一部改正

問 令和4年度国民健康保険税の減免対象者数は

答 令和3年度の実績が令和4年5月末時点で、7世帯101万2600円であり、令和4年度は前年度事業収入等から30%以上減少する見込みのある方が対象となるため、令和4年度は更に減少する見込みである。

令和4年度一般会計補正予算（第3号）関係分

問 リモート窓口導入事業を選択した理由

答 さつま町は広大な面積を有しており、支所を拠点とする連携が継続的な課題である。その中で距離的・時間的な地域差を埋めていくと考え、連携をとる上でしっかりと顔の見える窓口設置の必要性を考慮し事業を選択した。

問 ローカルブランディングの展望と全町的な展開をどのように考えるか

答 周辺自治体では道の駅整備構想を立てており、購買者が近隣市町に流れることが懸念される。そこでさつま町も対抗する競争力をつけなければならないと考える。

今年度、紫尾温泉と物産館を対象に調査を実施し、調査結果を踏まえ関係各課との連携を図りながら他地域への展開・発展を検討したい。

また、事業の進捗状況を議会全員協議会等でも報告を行っていききたい。

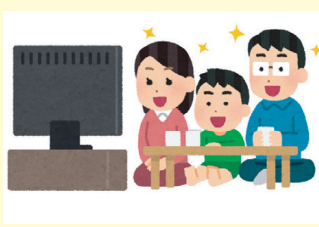
問 不堂団地内遊具撤去後はどのようになるか

答 該当遊具は十分活用がされ、初期の目的が果たされた。撤去後は遊具の新設は行わず広場になる。

ローカルブランディングのイメージ



町内施設等の調査・分析



新たなサービス等の実証展開・町外へのPR活動を実施

※ローカルブランディング事業概要

町と鹿児島銀行が共同で、紫尾温泉と物産館のブランド力を向上させるための現状調査・分析を行う。

この調査・分析結果を基に、鹿児島市民を中心とした集客力向上、交流人口増加のための新たなプロモーション事業を展開していく。

問 消防団への消防ホース配備状況は

答 ホースの配備数は基本本数を定めてあり、耐用年数や老朽化を考慮して基本本数に不足する分について、随時ホースを購入し配備している。

発議

問 さつま町で国民健康保険の国庫負担金の減額措置がなされた場合の影響額は、また減額措置がなされた場合の財源は

答 国庫負担金への影響額は概算で380万円程の減額になると見込まれる。減額措置となった際は町費負担となる。

総務厚生
常任委員会

委員会で付託された条例改正2件、令和4年度一般会計（関係分）及び特別会計の補正予算2件、発議2件が審議されました。
委員会審査の中で出された主な質疑、意見などを掲載しています。



実際の対面に近い品質で市内WEB会議による手続・相談の実施。

住民が持参した書類をスキャナで読み取り素早く確認。
高齢者等に配慮し、支所職員がWEB会議を支援。



リモート窓口のイメージ

委員会に付託された議案を全て可決

委員長 新改幸一
副委員長 上久保澄雄
委員 橋之口富雄
委員 上別府ユキ
委員 平八重光輝
委員 古田昌也
委員 川口憲男
委員 柏木幸平

令和4年度一般会計
補正予算(第3号)
関係分

文教経済
常任委員会

委員会で付託された条例改正1件、令和4年度一般会計補正予算(関係分)が審議されました。

委員会審査の中で出された主な質疑、意見などを掲載しています。

問 畜産クラスター事業を用いて建設される豚舎の臭気対策は十分か

答 これまでもオゾン脱臭装置を設置し臭気軽減が図られているが、脱臭装置を設置した豚舎を新築することで、これまでよりも効果的な臭気対策を講じられる。

問 木材不足が懸念されるが、バイオマス事業の見通しはどうか

答 一時的に貯木場から木材が減ったことは確認しているが、現在は比較的安定しており、本社からの搬入も滞りなく木材不足に陥っていない状況ではないと認識している。



木質バイオマス発電を行っているさつま町バイオマス燃料合同会社

問 文化施設整備計画(案)の推進は

答 宮之城文化センターは老朽化が進んでおり、空調整備や照明などこれまでも度々改修をしていることから、新たな文化センターの建設又は大規模改修が必要ではないかという議論が続いている。施設の規模や場所、建設・改修費用などを比較しながら総合的に判断し、整備計画を策定していきたい。関係者や町民に説明したうえで、民意を聞きながら検討を重ね、理解を求めることが行政の責任だと考えている。

問 文化施設整備委員会委員はどのような構成となるか

答 より民意を反映させるため区公民館長、女性団体、青年団、商工会青年部、利用団体等幅広い団体へ依頼をする予定である。また大学教授や建築技術者なども構成に加えていきたいと考える。併せて、町民2千人に対して無作為抽出によるアンケートと高校生300人程度へのアンケートを実施し、意見の汲み上げを考えている。

問 ちくりん公園法面補修箇所とその範囲は

答 本年4月の大雨でちくりん公園とかぐや姫グラウンドの境界の斜面が崩れた。山側からの湧水が原因で、約18メートルの法面が崩壊している。

令和4年第3回(9月)定例会は9月2日開会予定です。

9月定例会予定 議運…議会運営委員会、全協…全員協議会

日	月	火	水	木	金	土
	8/29 議運	8/30 全協	8/31	1	2 本会議 (開会日)	3
4	5 本会議 (一般質問)	6 本会議 (一般質問)	7 本会議 常任委員会	8 常任委員会	9 常任委員会	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19 敬老の日	20 議運 全協	21	22 本会議 (閉会日)	23 秋分の日	24
25	26	27	28	29	30	

日程は変更になることがあります。
詳しくは議会事務局(53-1111)にお問い合わせください。

○日程等は、防災行政無線放送や町ホームページで事前にお知らせいたします。

○鶴田支所、薩摩支所のロビーに設置してあるテレビやインターネット(YouTube)で、本会議の中継を視聴することができます。



QRコードを読み取るとライブ中継画面のページが表示されます。

一般質問

町政を問う



一般質問とは…

各議員が住民の代表として、町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針を聞き、町当局の考え方や疑問をただすことです。

単に疑問を解消し、事実関係を明らかにするだけではなく、現行政策の提言をする議員の重要な活動です。

本町議会の質問時間は、質問と町長等の答弁をあわせて1人60分以内となっており、6月定例会では9人の議員が一般質問を行います。

古田 昌也（7ページ）

- ・コロナ禍におけるこれからの部活動や学校行事の在り方について
- ・人口減少に伴う人材確保について

上久保 澄雄（8ページ）

- ・森林行政推進と地球環境改善への取組について
- ・デジタル化の推進について
その他1件

平山 俊郎（9ページ）

- ・宮之城中学校通学バスの停車場について

川口 憲男（10ページ）

- ・デジタル化の推進策及び町内への取組について
- ・GIGAスクールの推進について

橋之口 富雄（11ページ）

- ・アフターコロナ対策について

上別府 ユキ（11ページ）

- ・高齢者の温泉入浴料一部助成について

柏木 幸平（12ページ）

- ・災害対策について
- ・教育について

中村 慎一（13ページ）

- ・町の振興方策について
- ・豪雨災害対策の進捗について

有川 美子（14ページ）

- ・歴史と文化の薫るまちへの取組について
その他1件

一般質問関係の記事は、各議員から提出された原稿を基に、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問 1 日目の動画配信

古田 昌也
上久保 澄雄
平山 俊郎
川口 憲男
橋之口 富雄



一般質問 2 日目の動画配信

柏木 幸平
上別府 ユキ
中村 慎一
有川 美子





古田 昌也 議員

学校生活

中3生などの学校生活は十分か

教育長／可能な限り工夫する

問

新型コロナウイルス感染症が2年間続いており現在の中学3年生は、十分な学校生活、部活動などを行えているのか、どのように考えるか。

答

中学3年生については、入学時から感染症対策を取りながら一定の制限の下で学校生活を行っている（修学旅行の延期や昨年度の卒業式の縮小など）。今後、修学旅行等実施する場合、単に中止を考えるのではなく、実施の時期や行先等を工夫し、可能な限り実施できるように取り組んでいく。



部活動の様子（宮之城）

公共施設の
使用条件などは

教育長／
施設ごとに定めている

問

部活動やスポーツ少年団における公共施設使用条件や料金はどのようになっているか。また、町内のスポーツ団体やクラブなどの使用条件はどうなっているのか、違いがあるなら同じにする考えはないか。

答

使用条件については、町の条例及び施行規則で施設ごとに定めている。町内の小・中・高等学校の児童生徒が少年団活動又は課外活動で使用する場合は、全額免除となっている。クラブなど使用条件は異なる。同じ扱いにするには、今後検討の必要がある。



部活動でも使用される
宮之城総合体育館

居住支援

働き手の住居確保は

町長／更なる支援を検討

問

農工商全てにおいて働き手の確保が難しくなっている。その対策として外国人雇用も増えてきている。これら就労者に対して町営住宅などに住めるように支援する考えはないか。

答

町営住宅に関しては入居資格や条件等があるが、外国籍であっても入居が可能であり、現在も入居者がある。その他の支援策では、集団で居住できる施設として用途廃止になった町営住宅を企業に譲渡又は貸し出すなどできないか検討している。



介護の仕事に従事する
外国人労働者（さつま園）

環境保全

再造林政策の推進を

町長／適正な管理に努める



上久保 澄雄 議員



森林の間伐の様子

問

森林は水源涵養や有害物質の浄化機能等により地球環境の形成に必要不可欠な存在である。また高保水能力は、災害防止・国土保全上からも最重要事項であることから間伐・造林・森林保護等に関し、皆伐に対する影響・考え方を問う。

答

町は国土保全・地球温暖化防止を目的とし、拡大造林などの「さつま町持続可能なもりづくり交付金事業」を本年度創設した。再造林は、義務ではなく森林所有者の意向に左右されるため、森林経営等の意識改革を図りながら森林の適正な管理に努める。

水源涵養（すいげんかんよう）

…雨水を吸収して水源を保ち、あわせて河川の流量を調整すること。

皆伐（かいばつ）…対象となる範囲の樹木をすべて伐採すること。



3者協定（さつま町・鹿児島銀行・九州電力）の締結式

カーボンニュートラル…地球温暖化の主な原因である温室効果ガスの排出を極力抑えつつ、出てしまった分に関しては同じ量を吸収・除去することで、排出量を実質的にゼロにすること。

※その他の質問
新型コロナウイルス感染症抑制対策について



町ICTアドバイザーに就任した
原田 雄一氏

DX推進

デジタル化の推進策は

町長／ワンストップ型サービス提供へ

問

国はデジタル化を推進し、情報システムの一元化などで情報連携を進めており、本町でもデジタル推進の設置がなされている。合理化・効率化は重要だが、町民と遊離することのないよう、町民本意のシステム構築を考えるべき。

答

行財政改革の推進に位置付け、本年4月から「ICT推進アドバイザー」を置き、「デジタルによる業務効率の改善」「DX化による隣接自治体との差別化」を柱とした推進を考えている。町オリジナルのワンストップ型サービスを提供していきたい。

D X…デジタル技術を活用し、社会や生活を変化させること。
I C T…通信を使ってデジタル化された情報をやりとりする技術。



平山 俊郎 議員

通学バス

中学校通学バス対策は
教育長／安全・安心に努める

問

国道328号線沿いの「屋地本町」バス停付近の停車場は、朝夕は非常に交通量の多い場所であり、「通学バスが通行車両の妨げになっている」との声を聞いている。現在の停車場所と改善策で交通事故防止対策は万全か。

答

停車場所については、様々な課題や問題があることは認識している。このため、4月からは交通渋滞緩和対策として、町の公用バス2台が下校便に限り中学校へ乗り入れを行っている。今後も子ども達への交通安全の徹底、関係機関と連携を取った現場指導・見守り活動等の安全対策に努める。



宮之城中学校敷地に乗り入れる通学バス

問

通里会等通学バスに関し何らかの要請はないか。あったとすれば解決しているか。

答

バス停付近の近隣住民や事業所等から、待ち時間の中学生による迷惑行為に関する指導、通学バスのスクールバス化等様々な意見が出されている。解決していないものについては今後も関係機関と協議・意見交換を行い、研究検討を重ねる。

問

生徒が安全安心に利用できる乗車場所を新たに設置する考えはないか。

答

乗車場所の変更等について、鉄道記念館前も含め検討している。民間路線バス活用の在り方や町公共交通バスの在り方を含む総合的な見直しを行い、生徒が安全で安心して登下校できる環境づくりを努める。

議会からのお知らせ
議会傍聴方法

議会傍聴の際は予約不要です。ただし座席に限りがありますのでご了承下さい。



①役場本庁入口から左へ進みます。



②傍聴席のある3階へあがります。



③3階で左側一番奥まで進みます。



④傍聴席に着席し、傍聴を行います。

傍聴時の注意点

- 1 議場の言論に対して、拍手などにより公然と可否を示さないこと。
- 2 静かにして、騒ぎ立てないこと。
- 3 携帯電話は電源を切るかマナーモードにして、通話はしないこと。
- 4 飲食や喫煙をしないこと。
- 5 議事の妨害をしないこと。
- 6 議長の許可なく、写真や動画の撮影、録音を行わないこと。

※主な注意点のみ掲載しています。
詳しくは傍聴席前に掲示している注意事項やQRコードからご確認ください。



行政改革

デジタル化の推進策は

町長／インターネット通信可能に



川口 憲男 議員

問

光ケーブルが町内に完備した。デジタル化の推進で地域への新たな風を起こすことになるが、町民にデジタル化の意義・効率化をいかに進めるか。推進目標年度・達成年度を設定し進めべきと考えるが。

答

ブロードバンド整備事業で町内全域の希望する家庭等、インターネット通信が利用可能となり、デジタル化を推進する上で基盤整備ができた。推進目標等の設定は事務事業評価等において、目標年度・数値目標を設定する中で取りまとめていきたい。



デジタル関連業務を行う
町デジタル推進係

町内の取組・普及策は

町長／生活様式に大きな変化を

問

庁舎内・町内への推進策は目標年度・達成率等今後活かせる分野、特に防災等にインターネット・タブレットの活用は緊急の課題では。取組には時間も要するが、推進を図り光回線の利用推進が必要では。

答

庁舎内のペーパーレス化の推進等、我々の日常生活での電子化による行政手続の簡素化、児童・生徒の自宅でのタブレット利用拡大、町民の健康づくりへの普及等活用の幅は広く、今後の生活様式にも大いに変化をもたらすものと考えている。



タブレットを活用した授業風景

ICT化

GIGAスクールの推進は

教育長／活用の効果が見られた

問

昨年9月の一般質問でGIGAスクールの推進策を質問した。ICT支援員を配置し、早急な活用策を図るとの答弁であった。令和4年度、新型コロナウイルスの感染拡大で学級閉鎖等聞かGIGAの活用やリモート授業の効果は。

答

タブレット端末をほぼ毎日活用しており、調べ学習、意見交換の活動、ドリル学習などに活用されている。教員・児童生徒も「つながり」を感じること、安心・学習の保障が得られることがリモート授業の効果として挙げられる。タブレットそのものが学習の対象ではなく、学習の活性化を図り児童生徒の学びが充実するための使い方を考えていくことが大切である。



橋之口 富雄 議員

経済対策

アフターコロナ対策は

町長／第3弾商品券などを提案

問

新型コロナウイルス感染症のまん延が続く中、なかなか先が見通せない現実がある。しかしながらアフターコロナの対策を取っていく必要があると考える。今後町はどのような経済対策を講じていく考えであるか。

答

昨年度第2弾のさつま町応援商品券をはじめエール便、商工業者、農業者への事業継続支援金等を実施してきた。本年度も第3弾の応援商品券をはじめ、原油価格・物価高騰など国、県の支援対策の現況を見極めながら今会期中に提案したいと考えている。



薩摩のさつまのロゴマークとブランドの約束

問

町長によるトップセールスや、観光誘致などが重要になると考えるが、どのような方向性で取り組む考えか。

答

福岡市中央卸売市場や東京豊洲市場で新ゴボウの販売やハウス金柑の試食宣伝販売を行い本町のPRに努めてきた。本年10月に全国和牛能力共進会が本県で開催され、多くの来県者が予想され本町ブランドの「薩摩のさつま」等積極的にPRする。

観光客誘致の方向性は

町長／「薩摩のさつま」等PR

健康増進

高齢者に温泉入浴料助成を

町長／今後検討協議していく



上別府 ユキ 議員

問

我が町は「温泉のまちさつま町」と大きく掲げ、観光に力を入れている。町民の方々の温泉利用促進と、健康保持や福祉増進を目的として、高齢者への温泉入浴料助成金交付制度を実施する考えはないか。

答

高齢者の温泉利用は心身の健康増進が期待できる。温泉経営への経済効果も期待できるので、有効な事業である。県内でもいくつかの自治体で助成事業が行われているので、今後検討していく。

問

今後、この制度の検討を進めるにあたって、課題はどのようなものが考えられるか。

答

実施にあたっては対象者の年齢、入浴料の問題、バスなどの多方面からいろいろ検討していきたい。公約の中に「高齢者の健康で長生き」を掲げているので、関係課でしっかりと協議を重ねていきたい。



さつま町温泉ガイドブック

災害対策

防災準備は万全か

町長／連絡体制を再確認



柏木 幸平 議員



大雨時に配備されたポンプ車

問

昨年9月議会では、災害に伴う

1、都市下水路と道路整備
2、町管理の排水ポンプと国土交通省のポンプ車などの早期配置
3、避難所の見直し等の質問をしたが、その後の検討結果は。

答

都市下水路と道路整備については、町対応のものについては順次整備している。国土交通省とは、ポンプ車の配備要請について、連絡体制を再確認した。また、避難所体制等については、身近で避難しやすい施設利用や分散化に取り組んでいく。

災害復旧

二次災害への対策は

町長／早期完成と周知を

問

昨年の災害規模が大きかったため、いたる所で災害の爪痕が残っている。現在の復旧状況と今後のスケジュールは。また、残っている災害箇所の被害拡大防止は。

答

公共土木施設災害の発注は、134か所61%であり、農地・農業用施設災害復旧工事は、123件22%の発注率である。また、林道災害は、23件が発注済みで79%である。被害拡大防止については、早期完成と安全対策、防災活動の周知に努める。

問

ブラック校則と言われる校則が見直されている。町内の校則見直しについて、各学校への指導と実態は。

答

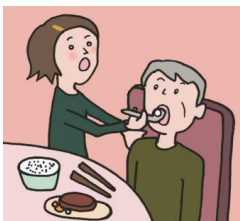
実態調査を行い、直す必要があることを指導した。令和3年度の本町での調査は、全学校で保護者アンケート、児童生徒と学級活動で話し合い等を行い、小学校5校と中学校において校則の改定が行われた。

校則改定

校則見直しの指導は

教育長／積極的な見直しを指導

ブラック校則…一般社会や一般常識から見て明らかに不可解で理不尽な校則、行き過ぎている校則。



ヤングケアラーの実態は

教育長／現段階では事例はない

問

大人に代わって日常的に家事や家族の世話をするヤングケアラー。厚生労働省の調査で、小学6年生の6・5%、中学生で5・7%との事である。本町の小中学生の実態は。

答

いろいろな情報は寄せられているが、現段階ではヤングケアラーと断定される案件はない。今後、子ども支援課と教育委員会が連携して、児童生徒の事例について情報共有し、対策を講じたい。

ヤングケアラー

…本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを、やむなく日常的に行わざるを得ない子どものこと。

※その他の質問
部活動指導について



中村 慎一 議員

地域振興

グリーンな空間整備を

町長／有効活用策を調査研究

問

コロナ禍に密を避けて自然回帰に動く今、キャンプサイトを再整備、地域と連携し本町の自然や田舎を売りにして、グリーン空間に遊びを楽しむSDGSな空間整備で、リピーターから移住定住に繋ぐ薩摩のさつまブランドとして町政の振興方策を。

答

山や川など自然を生かした交流人口増への取組と、既存施設の活用策を含めて調査研究を進め、神の湯キャンプ場も地元の意見を参考にニーズに合った取組を進めたい。県立公園歴史ゾーンに連携し、国指定史跡の宗功寺墓地を含めた周辺整備を行いたい。



九州屈指の石廟(せきびょう)が並ぶ宗功寺墓地

防災対策

豪雨災害対策の進捗は

町長／早い段階で避難情報を

問

昨年の7月豪雨災害から1年、早急な課題とされた懸案事項の進捗状況や取組は。また、虎居都市下水路の構造は、最近の豪雨に対応できず、特に下流は構造を再検討すべき。浸水被災地域の再度被災への対応等、安全安心の取組を進めよ。

答

気象庁の観測体制や河川事務所の洪水予報が早く出され、これらとホットラインで連携、早い段階で避難情報を提供。都市下水路は排水機場だけでは不足。国は流れ込む水を全体的に検討するようアドバイス。当面、排水ポンプ設置で対応したい。

防災訓練のあり方は 町長／図上演習を実施

問

本年度の避難訓練等の住民参加の状況は。また、昨年7月豪雨は深夜に発生。災害シミュレーションにより避難支援や被災者救出など、図上演習や避難所の開設運営訓練、災害対応報告・マニュアルで災害対応力の養成を。

答

防災訓練には57公民会（44％）で1900人余りが参加。各分団・地域役員による防災点検を実施。昨年の豪雨災害を振り返り、大規模災害を想定した図上演習を実施。また届出避難所制度を創設。災害避難に係るマニュアルは研究して作成したい。



二渡公民会で行われた避難誘導訓練

地域活性

歴史と文化への考えは

町長／歴史文化遺産は誇り



有川 美子 議員

問

わが町の歴史と文化は町の基盤であり、貴重な観光資源でもある。町民憲章に「生きがいを求め楽しく学び、文化の薫るまちをつくります」と、うたわれている。本町の歴史と文化に対する町長の考えはいかに。

答

私個人としても虎居城跡の山城・島津家墓所・永野金山などの貴重な歴史や数多くの文化遺産・伝統芸能等に誇りを持っている。今年度リニューアル予定の町ホームページ等を活用して、町内はもちろん全国的に情報発信できるように、関係団体と協力しながら、更なる歴史文化研究を進めていきたい。



地域活性化への取組を

町長／民間団体や地域と連携

問

北薩広域公園の歴史ゾーンの整備を見据え、わが町の基盤である歴史と文化を掘り起こし、新たな地域活性化へ繋げていく取組ができないか。

答

虎居城跡地と宗功寺墓所、歴史資料センターなどを巡るような文化観光周遊コースの検討や、歴史と文化を再確認するために、歴史資料センターを中心として民間の歴史文化関連団体や地域とも連携して、その掘り起こしや子ども達の郷土愛の醸成にも努めたい。また、新たに周辺の整備も考えていく。

問

本町の貴重な歴史を多くの子ども達に伝えるために、宮之城歴史資料センターが中心となって、親子で楽しめる歴史の本、漫画などでわかりやすく読みやすい本などを新たに制作する考えはないか。

答

既に、挿絵の多い本や漫画などがある。その中で新たな編さん等の取組をしながら、町ホームページ等いろいろな情報発信ができればと考えている。また歴史についての本は、図書館にもあり、読み聞かせであれば、取り組んでいけたらと考えている。

歴史散策パンフ作成は 教育長／今年度鶴田地区を予定

問

小学生は、1年に1校ずつ「さつま町文化財ボランティア」の皆様の協力のもと、歴史散策パンフレットを作成しているが、まだ実施校区が少ないようだ。今後の予定は。

答

今年度は、鶴田地区を予定。作成には小学校単位か地区・地域的な歴史背景等を検討し、複数校区まとめた作成等の課題や、さつまガイドのご協力が不可欠であり、作成にあたっての負担もあるため、1年に1冊が目標である。



盈進小児童とさつまガイド（楠木神社）

※その他の質問

・災害時の車中避難について
・防災無線への「やさしい日本語」の導入について（外国人との共生社会）

「区公民館長と議会との意見交換会」を開催

今回の意見交換会のテーマ

「議員定数及び議員報酬」 ・ 「これからの自治会活動」

〈開催日時〉 令和4年7月7日

〈開催場所〉 虎居地区公民館

5月に町内全20区で開催を予定していた「町民と議会との意見交換会」が中止になりましたが、町民の意見を聞く機会が必要と考え、町民の皆様の代表者である区公民館長と意見交換会を実施しました。

意見交換会の中で議会に対する多くのご意見やご質問をいただきました。今回寄せられたご意見や今後開催予定の参考人からの意見聴取を参考に、議員定数や議員報酬の見直しを行っていきます。



議会改革のための町民アンケートを実施

●実施目的

さつま町議会の更なる議会改革を進めるために、町民の皆様にご意見をお伺いします。

●実施方法

- ① 18歳以上の町民1,000人を年代別に対象者数を設定し、無作為抽出を行い、対象者にアンケート用紙を送付します。アンケート用紙が届きましたら回答を行い、同封されている返信用封筒もしくは公民会長へ提出いただきます。アンケートの詳細については、ご自宅に届いたアンケート用紙をご確認ください。
- ② 無作為抽出の対象者以外の方もインターネットからアンケートに回答可能です。回答はQRコードよりご回答いただけます。

●回答期限

8月31日（水）まで



議 会 活 動



瀬戸内町議会からの行政視察受入(5月16日)



行財政改革調査特別委員会のタブレット導入検討部会で操作デモ(7月4日)



商工会役員とさつま町議会議員との意見交換会 (7月22日)



○今回の取材で紹介できなかった写真を一部掲載いたします。



七夕の昔話を聞く様子
(つるだ同朋子ども園七夕行事)



みんなに将来の夢を話しました



コミュニケーションでお互い笑顔も
(さつま園で働く外国人労働者)

編集後記

6月議会では燃料高騰で打撃を受ける事業者への助成や文化センターの今後、観光客を増やすための新しい企画やデジタル推進関連など、町のこれからの方向性を決めるための予算が多く可決されました。

暮らしは政治と繋がっています。どうか興味ある情報だけでもご覧いただき、ご意見をお寄せください。
(有川)

議会広報特別委員会

委員長 上久保 澄雄
副委員長 有川 美子
委員 中村 慎一
委員 古田 昌也



《表紙紹介》

7月7日つるだ同朋子ども園で開催された七夕まつり。

子ども達はそれぞれ願いを込めて短冊を書いていました。